

【目的】

徳地アドベンチャー教育プログラム(以下「TAP」)の体験や講義、実習を通して、人間関係の構築や社会情動的スキルの向上を目的としたグループワークの指導者に求められる知識・技能を習得する機会を提供することで、参加者の指導能力の向上に資する。

【参加者】11名

【プログラムの内容】

- 1日目 開講式、セッション①「アクティビティの特性」、セッション②「安全管理、エレメントの使用方法」、セッション③「活動の組み立て、ファシリテーション」
- 2日目 セッション④「エレメントの指導」、セッション⑤「活動の組み立て」

セッション①



アイスブレイクの後、講義・演習を通してアクティビティのもつ特性や種別・タイプ、活用方法について理解する。

セッション④



参加者自身が他の参加者に対してエレメントを使った活動の指導を行うことで、安全管理やファシリテーションについて総合的に学ぶ。

セッション②



TAPにおける安全管理の考え方やエレメントの使用方法について、講義・実習を通して理解する

セッション⑤



仮想の団体を対象に3時間の活動を組み立てるグループ演習を通して、ファシリテーションの見通しをもった活動の組み立て方について総合的に学ぶ。

セッション③



グループの状態を見立てて活動を組み立てる方法と、活動中のファシリテーションの原則・技法について理解する。

【参加者の声】

- ・指導実習では、ファシリテーターとしてその時々判断をしないといけない難しさを感じました。見立てが甘かったり、自分では気づけなかったりすることが多いなと感じたので、活動についての想定を様々な角度で考えて行く習慣をつけたいと思います。
- ・イニシアティブやエレメントの体験があり、その上で指導実習や計画実習があったことで、イメージを持ちながら研修に臨むことができた。
- ・ファシリテーターを実際にやってみる経験ができて、自分に足りてないところ、強みの部分が分かったのがすごくよかった。自分自身エレメントに触れる機会がないので、もっと実際に体験する機会が多いとありがたかった。
- ・以前より、子どもたちはTAPを体験し、学んだことが学校で活かされているのか疑問に思っていた。教師が今回のようなことを学ぶことで、TAPの学びが学校でも活かされて、促進するのではないかと考えた。大学での教員養成や現職の研修で学ぶ機会があるとよいなと思う。

【成果】

- ・指導者が身に付けるべきハードスキル・ソフトスキルについて、指導実習や演習含め過不足なく提供することができ、内容に対する参加者満足度が高かった。

【課題】

- ・従来2泊3日で実施していた事業であり、内容を再検討して1泊2日で実施した結果、参加者からは体験や指導実習機会の増加に関する要望が寄せられた。次年度に向けて内容構成を再度検討したい。
- ・青少年教育施設職員だけでなく教員の指導能力の向上に寄与できる可能性もあるため、学校教育関係者への広報の強化など教員の参加を促す方策について検討したい。